



Newsletter

No.69

2016年9月25日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

～社会と生き方を変える映像～

## レイバー映画祭から広がる「映画ムーブメント」

7月23日、10年目を迎えた「レイバー映画祭2016」も320人が参加し、大盛況のうちに終了した。「元気をもらった」「心に沁みだ」と感動の声をたくさん聞いた。上映作品は『パレードへようこそ』『埋もれた時限爆弾』『がんを育てた男』『オキュパイ・ベーカリー』の4本で、ほかに『ショートビデオ・日本最前線』として「沖縄・フクシマ・コンビニ・シャンティ」の短編も上映された。

レイバー映画祭の作品は上映しただけでは終わらない。日本で初めて紹介したファストフード労働者のたたかいを描いた『オキュパイ・ベーカリー』は大好評で、個人加盟ユニオンなどから「上映したい」の声が多数寄せられた。そこで、レイバーネット国際部がアメリカの制作者と交渉し「上映OK」の返事を得ることができた。『オキュパイ・ベーカリー』で描かれたファストフード争議は、アメリカの最低賃金引き上げ運動のきっかけになったたたかい。学ぶことがたくさんある。ぜひこの映画の活用を呼びかけたい。

現代医療に挑戦した『がんを育てた男』も、大きな反響を呼んでいる。劇場公開・自主上映にむけて『がんを育てた男』を育てる会（小沢信男代表）も発足した。「週刊金曜日」で岩本太郎氏が（別掲）、また「東京新聞」コラム欄で鎌田慧氏が取りあげ



るなど、シニア世代の大問題「がん治療」に一石を投じている。

学生がアスベスト問題に挑んだ作品『埋もれた時限爆弾～さいたまアスベスト被害』も、自主上映が広がっている。東京では、9月29日ビデオアクトで上映される。

アクティブでラジカルなレイバー映画祭は、社会を変え生き方を変える「新しい映画ムーブメント」として着実に広がっている。（諸作品の上映問合せはレイバーネット事務局まで）。

### ● 抗う人々の声を拾い磨かれた10年目の「レイバー映画祭」

岩本太郎

インターネットや映像制作を通じて、労働運動を中心に様々な社会運動への支援や情報発信を行っている有志のネットワーク「レイバーネット日本」が主催する年一回の「レイバー映画祭」が、10年目の今年も7月23日に東京で開かれた。

今回メインとなった上映作品は、英国で実際に起きた炭鉱ストを舞台にレズビアン&ゲイ問題を描いて日本でも昨年劇場公開された『パレードへようこそ』（121分）で、他にもニューヨークのファストフード店に働く移民労働者たちの労働運動を追った日本初公開のドキュメンタリー『オキュパイ・ベーカリー』（84分）、さらにはレイバーネット日本のメンバーらによる計6作品が上映された。

最も注目を集めたのは、古参メンバーである映画批評家の木下昌明さんを、共同代表の松原明さんが佐々木有美さんとともに密着取材した『がんを育てた男』（60分）だ。高齢の木下さんは4年前に肛門がんを患い、医師から「手術をしないと余命は半年から2年」などと言われた。しかし、度重なる手術の甲斐なく若くして妻を亡くしていた木下さんは、まず手術ありきの方針には納得せず、『患者よ、がんと闘うな』（文藝春秋）で知られる慶應大学の近藤誠医師や、旧知の医師にも相談しながら、あくまで自分が納得できる治療の仕方を求めて奔走。不興を買った病院側から嫌味を言われたり、放射線科での治療を希望するも医師の判断で外科

### <レイバーネット特別カンパのお願い>

前号で呼びかけたレイバー映画祭2016カンパには12人41000円が寄せられました。ありがとうございました。おかげでレイバー映画祭は黒字で終了しました。しかし、残念ながらレイバーネット全体の財政はことしに入り、相当厳しくなっています。レイバーネットTVの支出増大や諸活動拡大に伴う経費増などの要因が大きいです。これまで16年間、レイバーネットは一度も赤字になったことはありませんが、現在、事

務局の手持ち現金が20万円を割りました。このままでは「ショート」する心配があります。なんとか手持ち現金を「50万円」にして「安定財政」にしたいのです。そこで緊急ですが、特別カンパ（目標30万円）を呼びかけたいと思います。今秋の活動を乗りきるためにも、ご協力いただければ幸いです。同封の郵便振替をご利用ください。（9月20日・レイバーネット事務局）

\*銀行口座は4ページ下段をご覧ください。

<1ページから続き>

に回されたりといった悪戦苦闘の末に放射線治療でがんが消え、なんとか元の生活に戻るまでの日々が、木下さんの飄々とした人柄が醸し出すユーモラスな雰囲気とともに描かれている。

労働問題とは関係ないじゃないかとの声もあるかもしれない。だがここにはレイバーネットを舞台に輩出されてきた作品と通底するものがある。松原さんの旧作『人らしく生きよう 国労冬物語』や、土屋トカチさんが若いトラック運転手の置かれた

過酷な労働状況に密着した『フツの仕事をしたい』、武蔵大学の学生たちがアスベスト被害者の実態やこれまでの歴史を追った今回の上映作『埋もれた時限爆弾』(36分)など、国や企業や病院の横暴や失敗や不誠実によって苦境に立たされながら、それに抗う人々の声を拾い上げて発信している点では『がんを育てた男』も実にレイバーネット流だ。その基本姿勢にはむしろ10年目を迎えてさらに磨きがかかってきたと見るべきだろう。(「週刊金曜日」2016年7月29日号より)

## ●新しい映画運動の波—湯本雅典『選挙が生まれる』

木下昌明

参院選前の国会前エリアで、高校生グループが抗議集会を行っていたとき、湯本雅典さんをみかけた。彼は報道陣のまん中に三脚をたて、「レイバーネット日本」の白い腕章をつけ、「レイバーネットTV」の名札をむねにぶらさげ堂々と撮影しているではないか。

今回の湯本さんの参院選野党共闘への取材は並々



ならぬものがあった。きょうは群馬、明日は長野ととびまわって、ネットに動画をアップしていた。

先日(9/9)、それが一本のドキュメンタリーとしてほぼ仕上がったので「みてほしい」と連絡があった。ビデオプレスの事務所で松原・佐々木とみて、わたしは感嘆した。また一本わたしたちの中から映画が生まれたと思った。

タイトルは『選挙が生まれる—長野と群馬の挑戦』(69分/写真)で、両県の「野党共闘選挙」活動する人々に密着した成果がついに花ひらいたのだ。特に主人公の堀越けいにんさんのたたかひの日は、

動画でみたときよりもずっと魅力にとんでいた。

これは次の選挙の<たたかひの文化の武器>となることは間違いなし。またふつうのドキュメンタリーとしてみてもあきることがない。

レイバーネット日本もかれこれ16余年になる。そこでネット情報を流すだけでなく、3分ビデオの作品もつくってきた。いろんな動画や写真等がネットを埋めた。それらを足がかりに、次々とドキュメンタリーも生まれた。土屋トカチの『フツの仕事をしたい』、ビデオプレスの『メトロレディーシリーズ』『がんを育てた男』、堀切さとみの『原発の町を追われて』、そしてこの湯本作品等々。

かつてフランスのヌーベルバーグ、それを受けての日本のヌーベルバーグと騒がれた映画革新の時代があった。これはそれに勝るとも劣らぬ(?)ドキュメンタリー運動の在り方といえよう。ついにネットの中から新しい映画運動の波が誕生したといえないか。



## <レイバーネット 2016 秋の活動予定>

### ●レイバーネットTV・リニューアルで月1回

2010年5月にスタートしたレイバーネットTVは、ことしで6年目。放送回数も100回をこえました。番組の出来はさまざまですが、マスコミができないテーマを取りあげ、労働現場からの発信、脱原発運動の推進、文化活動の紹介など、ネットTVの草分けとして貴重な役割を果たしてきました。しかし一方、マンネリ化やスタッフ疲れがあるのも事実。「アクティブでラジカルな番組づくり」には時間の余裕も必要で、月2回から月1回に減らし内容面も見直すことにしました。そのリニューアル第一回は、9月14日に「築地でええじゃないか!」を放送し、大きな反響がありました。引き続き、リニューアルの試みを進めていきます。

### ●9.28例会「みんなで話そう天皇制」

これまで例会や講座に手が回りませんでした。突っ込んで討論ができる場として適宜「例会」や「講座」をやりたいと思います。その手始めとして9月28日(水)19時、「みんなで話そう天皇制—生前退位をめぐる—」を天野恵一さんらをゲストに開催します。場所は、テレビのスタジオであるバンブースタジオ(竹林閣)です。参加費=500円。ぜひご参加ください。

### ●12.17レイバーフェスタ2016

ことしのレイバーフェスタは、12月17日(土)東京・田町交通ビル6Fホールで開催します。はたらくものの表現活動を広げ、安倍暴走にノーの声を! みなさんの知恵とチカラをお寄せください。

# ● 脱原発テント撤去抗議川柳 テント潰しても心は生きる

2016年9月11日発行

レイバーネット日本川柳版

脱原発川柳瓦版

転載等可

脱原発川柳班メンバーの一人、川柳作家の藤原さんによる「脱原発川柳」の紹介。川柳は、短歌や俳句と同様に、五七五七七の五拍子で、31文字以内で表現される。川柳は、自然や生活の観察から生まれる。川柳は、笑いや皮肉をこめて表現される。川柳は、心をこめて表現される。

脱原発川柳班メンバーの一人、川柳作家の藤原さんによる「脱原発川柳」の紹介。川柳は、短歌や俳句と同様に、五七五七七の五拍子で、31文字以内で表現される。川柳は、自然や生活の観察から生まれる。川柳は、笑いや皮肉をこめて表現される。川柳は、心をこめて表現される。

経産省前テントひろばは、脱原発運動のシンボルだった。とくに乱鬼龍氏はじめレイバーネットメンバーは、テント設立以来、深く関わってきた。毎週金曜日のネット放送「あおぞら放送・テントひろばから〜」を担ったり、テント川柳句会を応援してきた。そのテントが、8月21日未明に「強制撤去」されてしまった。抗議行動を許さぬ卑劣なやり方だった。これに最初に短歌で声をあげたのが、ドイツのレイバーネット川柳班メンバー独狼さんだった。「臆病の群れ真夜中に 襲い来て テント潰しても 心は生き



る」。それに続いて、他のメンバーも次々に怒りの句を詠んだ。こうして15人の投句でつくった「脱原発川柳瓦版」が生まれた。以下、一部紹介。  
 テント撤去今も心にテント立つ  
 ありがとう言う間許さず取り壊す  
 盗っ人のギネスに残る3時半  
 テントから生まれた川柳数知れず

ネット川柳班メンバー独狼さんだった。「臆病の群れ真夜中に 襲い来て テント潰しても 心は生き

## 話題のウェブサイト報道から

### ● パワハラにはストライキ！～女性たち決起「強くなれた気がする」



怒鳴られたりセクハラ発言で苛められてきた女性事務職員7人が、5月に組合を結成し、東京東部

労組に加盟した。彼女らの職場は「東京都個人タクシー協同組合新東京支部」、墨田地域の個人タクシー乗務員440人の事務作業を一手に担っている。しかし、組合をつくったものの、森支部長・宮口支部長は反省するどころか、パワハラ・セクハラの実態を認めず、組合活動の妨害ばかり行ってきた。そのため、組合はついに9月5日ストライキを決行することにした。この日は、乗務員全員が集まる「特別講習会」が曳舟文化センターで開かれる。ここで行動を起こすことは、組合の声を届ける絶好のチャンスだった。しかしストライキは生まれて初めて。委員長の中村未緒さんは、「胃が痛くなり眠れず心臓がドキドキだった」という。他のメンバーも表情が固く、緊張しまくっていることがよくわかった。

### ● わたしは19人のひとりだ！～大阪で「相模原施設障害者大虐殺追悼アクション」

9月12日(月)夕刻、梅田ヨドバシカメラ前で「相模原施設障害者大虐殺追悼アクション」が開催されました。「身体障害者にしか演じられない身体表現を追究するパフォーマンスグループ」劇団態変と有志たちが呼びかけ人となり、亡くなられた19人の四十九日にあたるこの日に開催されました。追悼の場には、約160名の人々が集まりました。最初に、呼びかけ人の1人であり、劇団態変の主宰者である金満里さんが、今回のあまりに残酷かつ卑劣な事件に対する思いと、このアクションを企画した思いを語りました。その後、集まった人々によるリレートークが始まりました。誰に話してもらおうか、事前に一切決めていませんでしたが、それぞれの思いを語る人々は途切れることがありませんでした。障害のある当事者、地域で暮らしている人、施設で暮らした経験のある人、障害のある家族がいる人々、社会福祉を学んでいる学生など、それぞれの立場から、こ



の事件に対する思いを語り、参加者だけでなく沿道を行き交う人々も立ち止まってその言葉に耳を傾けていました。(レイバーネット関西報道部)

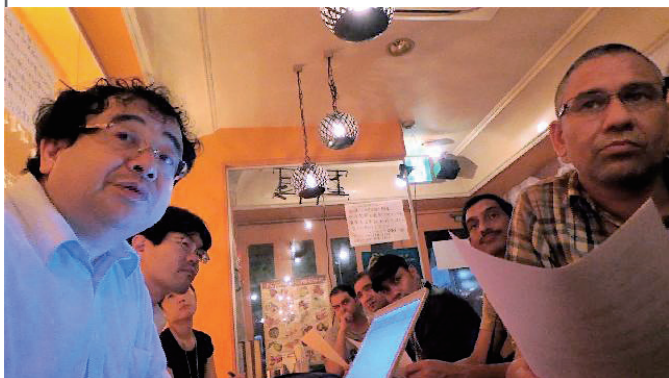
## 新会員紹介

### ●ワーカーズ・コレクティブをめざして

白沢 正

はじめまして。京都で主に本の装丁の仕事をフリーでしている白沢と申します。現在（装丁家が多く加盟する）とある業界団体に所属しています。最近その理事会が急に一般社団法人化すると言い出したのですが、その経緯に様々な疑問があるので「一般社団法人化は必要ない」との意見を表明しました。結局私一人しか明確な疑問の声が上がらず、東京で行われた2回目の臨時総会で先日社団法人化が了承されました。法人化は私から見れば一種の会社化です。今までより窮屈な組織にならないかとても心配しています。それよりも、スペインの人たちがやっているとワーカーズ・コレクティブ（共同労働組合）のような組織をめざしては？と提案してるのですが聞き入れてもらえませんでした。もうそろそろここを飛び出して、気の合う仲間と新しい同業者組合を作るしかないのかもしれないかもしれません。名前は例えばキョウト・デザイナーズ・コレクティブでしょうか…。

### ●17回目で合格の「闘う弁護士」 指宿昭一



指宿昭一（いぶすき・しょういち）と申します。職業は、労働弁護士です。労働者側の事件しかやりません。20代の前半、アルバイトをしていたセブイレブんでパート・アルバイトの労働組合を結成（合同労組の分会として）。その後、雇止めにあい、地位確認仮処分を闘い、金銭和解で解決しました。その後、合同労組の組合員・役員として、中小企業に労働組合を作る活動を行っていましたが、お世話になっていた弁護士が過労で倒れてしまったのをきっかけに、合同労組のメンバーから弁護士を養成することになり、私が司法試験を受けることになりました。16回不合格の後、17回目に合格。その後、弁護士登録と同時に、

一人で労働専門法律事務所として暁法律事務所を設立。外国人研修・技能実習生事件（三和サービス事件他）、精神疾患に罹患した労働者の解雇事件（日本ヒューレット・パカード事件）、タクシー運転手の歩合給ら残業代を控除することが違法とされた事件（国際自動車事件）、インド料理店の賃金不払い・破産事件（シャンティ事件）などに取り組んできました。労働者・労働組合とともに闘う弁護士でありたいと思っています。

### ●SCAT セミナールームの活用を！ 金野正晴



学生するとき「全金本山闘争」の集会に参加。社会人になって小企業労働争議を応援。30数年前からフィリピン・ミンダナオ島の先住民族の人々と交流。22年前、現地NGOリーダーが暗殺され（映画「教えられなかった戦争・フィリピン編」高岩仁監督 参照）、半年間、頭の中が真っ白になり、彼のメモリアルとして神楽坂にSCATセミナールーム（無料）を設立。レイバーネットとのお付き合いは、私のメモによると2003年11月25日から。個人的なことに言及すると、半年前から体調を崩し仕事もできなくなり、SCATセミナールームは年内いっぱい閉じ、2017年からは江戸川橋駅（有楽町線）近くの古いマンションに機能を縮小して移設予定。可能なら埼玉県毛呂山町に設立した分室（プレオープン紹介 You Tube：松原明氏撮影 [https://youtu.be/J06yn\\_h0kts](https://youtu.be/J06yn_h0kts)）の拡充を考えている。ご利用希望者は、金野（きんの）080-5499-8909まで。（自営業）

### <レイバー映画祭作品・上映情報>

- ★『オキュパイ・ベーカリー』移住連で12月に上映会
- ★『埋もれた時限爆弾』9月29日（木）19時、東京ボランティアセンター
- ★『がんを育てた男』10月2日（日）19時、シアターX（東京・両国）  
12月9日（金）19時、東京ボランティアセンター
- \*『オキュパイ・ベーカリー』の上映会を開きませんか？  
お問合せはレイバーネット事務局まで。

## レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円  
(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

現会員数 570名  
ウェブアクセス 1日 6,000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本  
銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所  
普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org  
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578